

平成 24 年 4 月 27 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 24 年 4 月 27 日 (金曜日)
午後 4 時から午後 5 時 10 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委員 羽賀 友信 委員 中村 美和
委員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

| | | | |
|----------------|-------|----------------|-------|
| 教育部長 | 佐藤 伸吉 | 子育て支援部長 | 矢沢 康子 |
| 教育総務課長 | 若月 和浩 | 教育施設課長 | 安部 和則 |
| 学務課長 | 近藤 知彦 | 学校教育課長 | 田中 仁 |
| 子ども家庭課長 | 佐藤 正高 | 保育課長 | 栗林 洋子 |
| 中央公民館長 | 武樋 正隆 | 中央図書館長 | 品田 満 |
| 科学博物館長 | 山屋 茂人 | 学校教育課主幹兼管理指導主事 | 関谷 祐二 |
| 学校教育課主幹兼管理指導主事 | 山田 修 | 学校教育課主幹兼管理指導主事 | 大矢 慎一 |
| スポーツ振興課 | 木元 実 | | |

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 水内 智慧 教育総務課庶務係 小川 瑞穂

6 議事日程

| 日程 | 議案番号 | 案 件 |
|----|--------|----------------------------------|
| 1 | | 会議録署名委員について |
| 2 | 第 35 号 | 長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の廃止について |
| 3 | 第 36 号 | 附属機関委員の委嘱について |

7 会議の経過

（大橋委員長） これより教育委員会 4 月定例会を開会する。

（大橋委員長） 会議に入る前に、矢沢子育て支援部長から発言を求められているので、願います。

（矢沢子育て支援部長） 4 月 1 日付け人事異動で教育委員会に転入した職員、昇任した職員 6 名を紹介させていただく。教育部長 佐藤、学務課長 近藤、学校教育課長 田中、中央公民館長 武樋、中央図書館長 品田、保育課長 栗林、以上である。

（大橋委員長） 新しい顔ぶれで 24 年度スタートする。よろしく願います。

日程第 1 会議録署名委員について

（大橋委員長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、中村委員及び青柳委員を指名する。

日程第 2 議案第 35 号 長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の廃止について

（大橋委員長） 日程第 2 議案第 35 号 長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の廃止について を議題とする。事務局の説明を求める。

（山屋科学博物館長） 大黒町にある北越戊辰戦争伝承館であるが、5 月 25 日にオープニングを行い、26 日から開館する予定である。展示を含め、施設は昨年度にできあがっている。2 年前に展示内容等を検討する委員会を設置する要綱を制定していたが、施設の完成に合わせて廃止するものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第3 議案第36号 附属機関委員の委嘱について

(大橋委員長) 日程第3 議案第36号 附属機関委員の委嘱について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 長岡市社会教育委員兼長岡市公民館運営審議会委員については、3月の定例会において20名のうち19名を決定させていただいた。もう1名について、記載のとおり委員を委嘱したいものである。栃尾美術館協議会委員については、小・中学校から1名ずつ委員になってもらっているが、該当委員が3月31日付けで退職されたので、記載の方に委員を委嘱したいものである。委嘱期間は記載のとおりである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。報告事項について、平成23年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について、事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき、教育委員会が行っている事務について、学識者の知見を活用しながら、点検及び評価することとなっている。平成19年度分の評価、つまり20年度から実施しているが、

今年度は 23 年度分について、評価、点検を行っていく。昨年 4 月の定例会においてお諮りした教育振興基本計画に基づき事務を行っており、その点検、評価を行うこととなる。現在各課において自己点検をしているところであり、5 月下旬から 8 月にかけて 3 回、評価委員会を開く予定である。6 月下旬もしくは 7 月上旬の 2 回目の評価委員会には教育委員にも参加いただき意見交換を行う予定である。8 月上旬までに報告書を取りまとめ、8 月定例会にてお諮りし、9 月の市議会定例会に報告し公表することとしている。学識経験者については、市内に在住の学校教育、社会教育、子育て支援の関係者 4 名の方から委員をしていただく。任期は 2 年であるため今年度新しい方々から就任いただくこととなったものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 評価報告書が 8 月定例会において決定、それまでに 3 回、評価委員会が行われ、そのうち 1 回に教育委員が出席するという形でよいか。

(若月教育総務課長) 1 回目は自己点検の結果について委員に説明を行う。2 回目は教育委員と評価委員の意見交換と評価委員からの質疑を受け、事務局がお答えする。3 回目に原案を取りまとめ、8 月の定例会に議案として提出する。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に長岡市教育委員会表彰について、事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 被表彰者の方はすでにお亡くなりになっているが、このたび生前阪之上小学校の卒業生であり、亡くなったらリトグラフを学校に寄付してほしいとの意志を姉に伝えており、その姉から学校に寄付の申し出があった。リトグラフは平山郁夫氏の「流沙浄土変」で、見積額は 90 万円であった。寄付の額が 50 万円から 100 万円については、教育委員会から感謝状を贈呈することとなっており、このたび感謝状を贈呈させていただいた。先日 25 日にお姉さんお二人が学校にお持ちになることだったので、その際に教育長から感謝状を渡していただいた。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、次に学校・保育園の給食用食材の放射性物質検査について、事務局の説明を求める。

(近藤学務課長) 検査について説明する。3 月の定例会でも概要を説明したが、当

初の予定どおり4月9日からこの検査を実施している。検査内容は翌日の給食に使用する食材のうち、学校で使用する食材から1品目、保育園で使用する食材から1品目、1日2品目を抽出し、月曜日から木曜日まで、週4日、県地域振興局の長岡保健所に持ち込み、県の担当職員から測定してもらうものである。検査品目は北関東・東北地方などこれまで出荷制限を受けたことがある地域の食材がある場合は、それらを中心に抽出することとし、該当がない場合は、汎用性の高いものを検査することとしている。これまで検査品目、測定結果は一覧にまとめたとおりで、放射性物質の検出は一切ない。ちなみにこの資料は23日までであるが、その後24日、昨日と検査を行ったが、放射性物質の検出は一切なかった。給食の食材の選定については、そもそも国が定めた基準の範囲内で、出荷側の都道府県が実施した検査をクリアした食材であり、万全を期している。この検査はそれにさらに加えて調理前に抽出、検査を行うこと、放射性物質が検出されないことを確認したうえで調理を行うことで、児童生徒、保護者に安心感を与えるためのものである。検出されないことが前提であるが、万が一検出された場合、給食には使用せず、さらに専門検査機関に精密検査に依頼することとしている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 具体的な検査方法を教えてほしい。

(近藤学務課長) 朝方、材料を卸業者などへ職員が取りに行く。その食材を幸町分室内で検査機器にかけるために細かく刻む。だいたい300グラム程度必要である。その刻んだものを、午前中に県の長岡保健所に持ち込む。保健所には簡易測定器が設置されており、県の検査技師に食材を渡し、機械で測定し、10分から15分程度で結果が出る。この機械は簡易測定器であり、放射性物質の詳しい結果が出るわけではない。万が一検出されると「要再検査」という表示、一切検出されない場合は「不検出」という表示が出るものである。午前中に結果がわかるので、その情報は即日、市のホームページに掲載をしている。

(大橋委員長) いつまで続けるのか。

(近藤学務課長) 当面の間で、期限はない。

(羽賀委員) いろいろなところで風評被害や、過剰反応が出ていると思うが、検出されたことがある県からの食材を使うことに反応はあるのか。

(近藤学務課長) この検査を行うこと自体おかしいとか、この検査を行うということは危ない食材を使っているのではないかという保護者はいない。まずは安心感を持ってほしい。ホームページでもきちんと説明をしながら実施している。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に長岡市公立学校通学区域審議会 会議報告について、事務局の説明を求める。

(近藤学務課長) 長岡市公立学校通学区域審議会は去る3月27日に教育センター大研修室で行われ、出席委員は23名であった。議題は大きく3点あった。1点目は、長岡市立学校通学区域規則の一部改正についてである。新組町の一部が平成24年3月20日付けで新組南町と町名変更され、新組小学校の通学区域に新組南町を加えたことと、養護学校が総合支援学校に校名変更し、高等部の通学区域を改正したことを報告した。2点目は委員長、副委員長の選任である。これは、昨年10月1日に委員の改選があり、この委員会が改選後初の委員会であったため、委員長、副委員長の選任が行われた。委員長は、南中学校区の代表者、副委員長は2名で西中学校区の代表者及び旭岡中学校区の代表者、それぞれ再任である。3点目は学校規模適正化について自由な意見交換を行った。出された主な意見として、子どもの数が減っていく中で、あまり悠長なことは言っていないのではないか。迅速に対応するには、教育委員会が率先して、たとえば学校の区割りなどの構想も明らかにしていけないと、なかなか地域の動きも出てこないのではないかという意見があった。また、保護者の世代と地域の高齢者の世代間では、学校のあり方に対する意識の乖離がかなりあるため、子どもたちのために何が一番良いのかをまず考え、地元の人たちと丁寧な話し合いをする必要があるのではという意見も出された。そうした意見を総括し、審議会としては地域の声が出にくいことを理解はしているが、学校規模適正化は単に子ども的人数だけで機械的に再分化していくものではなく、地域や歴史的経緯があって成り立つものであるから、地域に対する説明を十分に行い、同意を得たうえで慎重かつ適切に適正化を図っていくことが適当であるという総括をいただいた。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) ないようなので、次に冊子「郷土長岡を語る『ながおか学』」の配布について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) コンパクトで扱いやすいものになっている。内容は、郷土へ

の誇りを持てるようにするために、これだけはぜひ知っておいてほしいということや、長岡の誇れるものについて説明した冊子である。長岡の、ガイドブックであり、読み物でもあるという二面性を持たせている。中身は学校での学習活動に役立つものであり、例えば総合的学習の時間や道徳の時間に子どもたちが調べて発表する、人の生き方、平和な社会のあり方などについて学ぶ際の資料とする。また家庭や地域で通読して、長岡についての基本的な知識を持ってほしいという願いも込めている。作成部数は20,000部でこのうち3,000部は成人式で配りたいと考えており、16,000部は学校に配り、残りについては一般頒布とする。1冊500円である。配付先であるが、平成24年度は小学5年生から中学3年生まで全員に配布し、平成25年度以降は小学5年生に配布する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 成人式で配布とあったが、今年度だけか。

(佐藤子ども家庭課長) 今年度、中学3年生まで配付されるので、今後は中学校を卒業した人は持っていることとなるため、今年から6年間、毎年配りたいと考えている。

(大橋委員長) 3部構成、古今東西、各地域をまとめてあり、ご苦労もあつただろうと推測する。知らないわけではないが、なるほどと思うところもあつた。保護者もぜひ関心を持っていただきたい。圧巻は2部である。平和教育を重視しているという印象を受けた。学校でも家庭でも話題として出してほしい。

(中村委員) 1冊500円とのことだが、どこで販売するのか。PRとして市政だより等に載るのか。

(田中学校教育課長) アオーレ長岡東棟の市民なんでも窓口で販売を考えている。これからPRしていく。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に防災教育用パンフレットの配布について、事務局の説明を求める。

(大矢学校教育課管理指導主事) 長岡市では中越地震を受けて、平成17年度に「中越地震から学ぶ」というパンフレットを使い防災教育を行ってきた。これを先の東日本大震災を受け、よりよいパンフレットを作成するため、昨年1年間かけて改訂を行ってきた。小学校の教員4名、中学校の教員2名、教育関係者、合わせて9名の作成

委員会、長岡市危機管理防災本部、長岡市消防本部の協力を得ながら改訂を進めてきた。内容と活用についてであるが、改定のポイントは4点ある。1点目は今までは地震だけであったが、津波と風水害を加えた。2点目は「自分の命は自分で守る」という基本的な考えのもと、災害が発生したときには、自ら判断し行動できる力を育成することをねらいとしたことである。3点目はパンフレットを活用してより充実した授業を行えるよう、指導資料の充実を図った。4点目は家庭との連携を図るための内容を指導資料に加えたことである。活用方法については、小学校3年生以上については、このパンフレットを使用した授業を年間1時間以上することとしている。また避難訓練においても事前指導、事後指導でパンフレットを有効利用するよう指導している。配布については、3年生以上に児童生徒の人数配布した。これは毎年配ることはしない。学校においてその学年で使用してもらう。小学校中学年、高学年、中学生用の3部に分かれている。小学校の中学年用は4ページ構成になっている。今までは地震だけだったが大雨、台風も記載した。高学年用には台風、大雨、洪水、土砂災害について入れてある。中学生用は8ページ構成で、各種災害について触れている。特に特徴的なものは「家族防災会議を開こう」という中身や、自分の命は自分で守るとして「釜石の奇跡」を掲載した。指導事例は、各学校が有効にパンフレットを使用して授業を行うための資料である。事例は学年ごとにあり、ワークシートも作成した。これを児童生徒が活用し、裏面には「おうちの人から」欄に学校でやったことを家庭でも確認していただく構成になっている。中学3年生のワークシートは自分の命は自分で守るためにどのような行動をとるか具体的に書かせたり、避難所生活を送ることになったとき何ができるか、自分の住んでいる自主防災会について調べ、保護者からも確認してもらえる構成になっている。これはあくまでも指導事例なので、学校はさらに工夫して授業を進めてもらうよう指導していく。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 指導事例も学校に配布するのか。

(大矢学校教育課管理指導主事) そうである。

(中村委員) わかりやすく、非常にいい教材ができたと思う。年間1時間以上とあるが、PTAや保護者も一緒に話を聞ける機会もあると、さらに家庭に持ち帰ったときに一緒に話し合いもでき、より効果的になる。実体験をした子どもたちもまだたく

さんいるので、よりいい方向の指導に活かしてほしい。

(大矢学校教育課管理指導主事) 貴重なご意見、非常にありがたい。ぜひ学校にも紹介したい。

(加藤教育長) 災害発生をしたときの基礎知識としては学べる。事務局から説明があったが、いかに災害が起きたときに行動できるかが大切で、行動できなければ意味がない。ぜひ学校に指導してほしい。先日から立て続けに登校中の事故があった。亡くなった子どももいる。集団登校で、上級生の前についていけばいいとか、横断歩道でもセーフティーパトロールの人が渡っていいと言っているから左右を確認せず、とにかく前についていけばいいではだめである。常に、車の音を聞いて、来るかも知れないとか、訓練をさせていかないといけない。学校に強く指導してほしい。学力向上ばかりでなく、命あってのものである。ぜひお願いしたい。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に長岡市予防接種事故災害補償規程の一部改正について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) まず、この規程については、教育委員会ではなく長岡市としての制定であるため報告事項としているものである。内容は、平成 24 年 4 月 1 日付けで、長岡市の規程の基になっている全国市長会の規程の一部改正に伴い、補償金額が引き下げられたため、それにあわせて長岡市も補償金額の引き下げを行うものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 長岡でこういった事故はあるのか。

(佐藤子ども家庭課長) 数年起きていない。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成 24 年度長岡市成人式について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 今回の長岡市の成人式の報告である。今回 5 箇所で開催される。まず長岡地域の成人式実施方針の報告を行う。今までと変更になったところを説明する。会場がアオーレ長岡のアリーナとなる。2 階席に余裕があるため、新成人の家族等の参観席を設けている。その旨は対象の成人の案内に明記している。今までは市立劇場で、限られた座席だったため保護者は入れなかった。今回その点が目に見えて変わっている。その他の内容に関して、例年どおり午前 11 時から正午と

記載しているが、今回初めてのアオーレ長岡開催ということもあり、サプライズゲストとして、正午から長岡出身の「ひなた」という男性2人組の歌手に登場していただき、現在32、33歳の方であるので後輩に向けての応援ソングのプレゼントを組み込んだ成人式を考えている。「ひなた」とともに後半では、太鼓を披露してくれる長生保育園も一緒に演奏してくれるとのことで、今まで以上に一体となった盛り上がりのある成人式を考えている。それに伴い、終了時間が12時半を想定している。午後の成人式に出席をお願いしている、羽賀委員、中村委員については途中退席をお願いしたい。また、記念品であるが、先ほどの学校教育課からの説明にもあったが、大人にも読んでもらいたい「ながおか学」ができたため、これを配布したい。昨年までは、長岡花火のデザイン入りオリジナル図書カードを配布していたが、「ながおか学」を持って帰っていただきたい。その他の地域については、越路、小国、栃尾、川口地域である。それぞれ教育委員から出席いただく。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 「ながおか学」はどのように渡すのか。手提げ袋のようなものか、それとも封書か。

(佐藤子ども家庭課長) 「祝 成人式」とある封筒である。これは選挙管理委員会から提供していただいている封筒で、これに「ながおか学」とパンフレット等を一式でお渡しする。

(中村委員) アリーナ2階を家族席とあったが、一般の方も自由に入れるのか。

(佐藤子ども家庭課長) どなたでも入れる。席に余裕がある。

(中村委員) 華やかな席なので保護者から行きたいとの声も聞く。

(佐藤子ども家庭課長) ぜひおいでいただきたい。

(加藤教育長) 誰でも入れるとなると警備上の問題も発生する可能性もある。心しておいてほしい。

(佐藤子ども家庭課長) 受付を行い、そこでしおりを配付する。名前を確認するわけではないが、お声がけするなどの対応をしたい。

(青柳委員) 保護者には、招待状のような形で周知してあるのか。

(佐藤子ども家庭課長) 成人本人宛にダイレクトメールを送っており、そこに保護者席を設けてあると記載している。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に長岡市青少年問題協議会委員について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 長岡市青少年問題協議会は、昭和41年に設置されたもので、委員が2年任期であり、24年4月が改選期である。新しい委員が確定したので報告する。会長は市長と条例で定めている。副会長は委員の中から会議で互選で選ぶが、1回目の会議はこれからであるため、副会長は未定である。新任の方も多く、全部で19人中12人と、大半が新任の方である。それぞれ選出分野も規則等で明記している。教育委員会から青柳委員が新任である。昨年と変わった点について、昨年までは会長を除いて委員が24人いた。今年は5人減っている。人数が減ったのは、学識経験者の中でも各地域の代表の部分で、今までは10箇所の地域すべてから推薦をもらっていたが、今回から5地域とし、和島、寺泊、栃尾、与板、川口の5地域からは選出しないこととした。理由は、これまで会議の中で人数の関係で一人お一人の発言が短くなってきた。多くの方から十分意見を聞きたいため、人数を少なくした。2年後の改選期には、地域を交代することとした。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、ながおか子育てネット『であい!ふれあい!つながる輪』の発行について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 『であい!ふれあい!つながる輪』はおやこサークルの特集である。小冊子の刊行については、編集委員を募集し、市民手作りとして位置づけている。子育て中の方から、実際にネットワークを広げるきっかけ作りとして編集委員を募集している。今回6冊目である。去年は子育て支援センターの特集をしたもので、その前は公園の特集であった。毎年編集委員が話し合いながら進めており、今年はおやこサークルの特集となった。おやこサークルについて、今まで子ども家庭課では業務的に作成した一覧表はあった。今回は、父母の目から見て、写真もありわかりやすく作っている。今後母子保健活動などで活用していきたいと考えている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) サークルに入りたいと思った方はどうしたらよいのか。

(佐藤子ども家庭課長) 連絡先は載っていない。「Q & A」を確認していただき、

子育ての駅にお問い合わせいただければ、代表者の連絡先をお伝えする。

（加藤教育長） 個人情報の観点からか。

（佐藤子ども家庭課長） そうである。

（加藤教育長） 市役所の職員でサークルを作っていると聞いたが、それはここに載せないのか。

（佐藤子ども家庭課長） 事業所単位のサークル活動は載せていない。一般の方も参加できるものを載せている。

（大橋委員長） 他にないようなので、次に平成 24 年度長岡市スポーツ振興事業計画について、事務局の説明を求める。

（木元スポーツ振興課長） 平成 24 年度長岡市スポーツ振興事業計画の概要について説明する。まず、1 点目は長岡市体育協会が公益財団法人長岡市スポーツ協会に名称を変更したので報告する。このスポーツ協会と連携しながら、市民スポーツ活動の充実、競技スポーツの振興、スポーツ好きな元気な子どもたちの育成、スポーツ施設の計画的な整備、この 4 つの柱に基づいてスポーツ振興を進めていきたいと考えている。市民スポーツ活動の充実の部分については、特に地域交流スポーツ大会の開催、これについてこれまで各地域に体育指導員というコーディネーター役の人材がいたが、スポーツ基本法の改正によりスポーツ推進員という名称に変更になった。これらの人材が中心となって、市民のみなさんが気軽に参加できる大会を開催している。さらに充実を図ることを考えている。アオーレアリーナ等の活用を含めて実施したい。総合型スポーツクラブの活動支援について、現在栖吉地域を中心として、長岡工業高等専門学校の体育館、屋外運動施設を活用して総合型スポーツクラブの蒼柴クラブが活動している。今後、川口地域、寺泊地域でスポーツ協会と一緒に立ち上げの支援をしていく。総合型スポーツクラブについては、施設のあるところ、あるいは支所単位で推進をしていく。競技スポーツの振興について、今年度インターハイの長岡開催もあるため、長岡市開催種目のジュニア選手の強化をしていく。大規模大会の開催の補助について、インターハイ正式種目ではないが、同時期に全国高等学校少林寺拳法大会を、市民体育館を会場に開催する。来年度以降インターハイの正式種目に入ると聞いているが、今年度は協会の独自の全国大会である。以下地域特有の大会について支援をしていく。寺泊シーサイドマラソン大会について、今年度ゲストランナーとして

有森有子さんを招聘している。これまでも2千名程度のランナーが海岸沿いを走っている。ハーフ、3キロまであるが、ゲストランナーをお招きし、より大会を盛り上げる。インターハイ開催については、長岡市では競泳と飛び込みをダイエープロビスフェニックスプールにて8月17日から20日に開催し、これがメインになる。テニス競技については、南魚沼市と合同開催となり、メイン会場は南魚沼市で、希望が丘テニスコートはサブ会場である。スポーツ好きな元気な子どもたちの育成については、定住自立圏のスポーツ指導者養成について引き続き実施していく。トップアスリートの招聘については、4つの事業をアオーレ長岡のアリーナを会場に考えている。5月22日に地元開催の女子プロゴルフ大会の市民交流イベントを皮切りに、実施していく。車椅子テニスの世界チャンピオン招聘について、12月9日、アオーレ長岡アリーナにおいて、国枝慎吾氏という車椅子テニスの世界チャンピオンをお招きし、地元のテニスのジュニア選手等とエキシビジョンマッチを開催し、トップアスリートのすごさを体験してほしいと考えている。車椅子テニスについては、パラリンピックのほか、国際組織の中で世界4大会、メジャー大会がある。国枝選手は、いずれの大会でも優勝しており、グランドスラムであり、金メダリストである。非常に著名な方を招聘することができた。熱中！感動！夢づくり教育について、引き続き寺泊のヨット「さきがけ」を活用して地元の子どもたちを中心に海洋スポーツの育成を図っていく。子ども元気塾の助成についても、子どもたちを対象にする団体に対し支援を考えていく。スポーツ施設の計画的な整備について、新規分について説明する。ニュータウン運動公園について、現在サッカー場1面の整備が完了しており、新たに1面整備を行い、それに伴い管理棟、駐車場を整備していく。市民体育館の北側、文化公園側に砂利を敷いた駐車上があるが、そこに器械体操専用の練習場を設置する。スキー場の整備については、市営スキー場は教育活動の場として、たくさんの学校からおいでいただいた。スキー授業でもそうだが、週末ともなるとリフト2基しかいないため、リフト待ちがすごかった。初心者リフトのうえに上級者リフトがあり、それもあってすごく混雑していた。それを整備するため、簡易リフトを、初心者リフトに平行して設置し、上級・初級者を振り分ける。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 他に協議報告はないか。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員